世界遺産登録 20 周年

岩﨑家文書にみる、100 年前の高野山参詣

弘法大師空海が開いた聖地高野山は古来崇敬を集め、現代に至るまで数多の参詣者が訪れています。平成 16 年（2004）には、高野山とその参詣道は「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として世界遺産に登録されました。

現在では多くの人が電車や自動車を利用して高野山を訪れていますが、このような光景は明治時代から大正時代にかけての鉄道路線の開通や整備、自動車の登場により、徐々にみられるようになったもので、合わせて時刻表や地図も作成されました。同時期には多様な参詣案内、店舗などの広告なども作成されており、当時の高野山参詣の雰囲気を感じることができます。

本パネル展示では当館寄託の岩﨑家文書から、おもに大正時代の高野山参詣に関する資料を取り上げて、およそ 100 年前の参詣の様相について振り返ります。

高野山への行き方

文書番号 5366
高野山名所絵図 （近代） 作成：南海鉄道株式会社

高野山の名所を紙面いっぱいに描いた広告で、大正後期から昭和初期の間に、南海鉄道株式会社（当時）が作成したものと考えられます。

「大阪より一番近い」、「高野山への一番近みち」、「大阪から日帰りのできるやう」と、高野山に通じる南海電車高野線の利便性をアピールしています。高野山参詣が容易となったと宣伝する点は、当時のほかの広告や案内書などにもよくみられます。